

## I-5 植物性多糖類 (AHCC・D-12) を用いた 癌免疫治療 -免疫学的治療指針 (E.B.I) とその戦略-

○宇野 克明 (東海大学外科、コンフォート病院)  
筑丸 志津子 (医療法人財団コンフォート病院)  
細川 丈志 (医療法人財団コンフォート病院)

### 【目的】

キノコ系植物性多糖類 AHCC ならびに PSK は免疫修飾作用が確認され、癌免疫治療領域において癌宿主-腫瘍の関係を改善しうる B R M と位置付けられている。しかしながら今まで医学的根拠に基づく医療 (E.B.M.) に則りこれら植物性多糖類を利用した癌免疫治療の指針と応用戦略について示した報告はない。我々はこれら食品組成物・医薬品をはじめとした B R M 様物質が実際の癌臨床において担癌患者の奏効率、生存率にどのような影響を与えるか調査を行い、「医学的根拠に基づく免疫治療 (Evidence Based Immunotherapy : E.B.I)」としての指針・戦略を検討したので報告する。

### 【対象・方法】

平成 10 年 10 月より平成 12 年 8 月の間に受診された固形癌患者 624 名と健常人対照 224 名。免疫治療群はリンパ球刺激としてキノコ由来食品組成物「AHCC」および医薬品「PSK」を摂取服用せしめ効果を検討した。免疫微少環境改善を目的とした検討では非キノコ系多糖類食品組成物「D-12」の併用も行い各種免疫学的パラメータ検討を実施した。

### 【成績】

AHCC 摂取群、AHCC+PSK 摂取群において有意な Th1 関連サイトカイン産生能の上昇を認めた (インターロイキン 12、インターフェロン $\gamma$ ほか)。D-12 摂取群では Th1 関連サイトカイン産生能の長期維持に有意な差を認めた。奏効率、生存率の検定では Th1 関連サイトカイン産生能の向上群、そして NK 細胞活性の正常域群で有意に良好な結果を認めた。

### 【結論】

癌免疫治療において Th1 関連サイトカイン産生能の向上を主眼としたリンパ球刺激と、その長期維持を目的とした免疫微少環境改善が重要であると示唆された。この併用効果の治療指針としては Th1 関連サイトカイン産生能ならびに NK 細胞活性の測定が重要であり、E.B.I.として適切な手段であることが推察された。